

エンジニアパーク

Engineer Ring Park

私は札幌で生まれ育ち、大学時代を過ごした縁もあって函館で就職した後、この業界に転職しました。現在は自然環境を対象に、主に公共事業に関わる環境保全に携わっています。

思い返すと、私が生き物に興味を持ったきっかけは実家で飼っていた猫でした。この猫は何を考えているか？どんな風に世の中を見ているか？といった疑問に駆られ、自由奔放な猫の散歩を追跡

したり、状況の変化に行動をどう変化させるかといった猫にとっては迷惑な観察をした覚えがあります。その興味が派生してか、大学では何も目印のない大海原で海鳥はどのように定位したり、餌を見つけるかといった研究を模索し、北海道や青森、岩手の離島で生態調査やバイオロギング調査に取り組みました。中でも、北海道天売島で夕方に見られる無数の海鳥の帰巢シーンは圧巻でした。

卒業後は地方自治体の行政職に就き、生活保護や教育委員会（建築や土木関係）の仕事に関わりました。前職はこの業界とは毛色の異なる業種ですが、今になって思えば、北海道の地方行政の実情や自治体における業務の受発注の仕組みなど、現業務の背景的な知識を学ぶことができ、遠回りでしたが経験のつながりを感じています。

資格取得にあたっては、社内外の方々に大変お世話になりました。社外の勉強会に参加させていただいた際には、資格取得テクニックの習得ではなく、資格試験を通じた技術力の向上を目的としたご支援・ご指導をいただき、業務と向き合う視点や技術者としての倫理観を学ばせて頂くことができました。これからも北海道の発展と自然に少しでも貢献できるよう尽力したいと思います。

保科 賢司 (ほしな けんじ)

●建設部門(建設環境)

勤務先

パブリックコンサルタント
株式会社



→次号は、合田元清さん(建設部門)

私は愛知県で育ち、大学から北海道に来ました。実家は兼業農家だったのですが、帯広空港に降り立った時に、本州との畑の広さの違いに愕然としたのを覚えています。大学では釣りのサークルに入り、植物・水生昆虫・魚との関連、北海道の溪流や落葉広葉樹を主体とした溪畔林の美しさに惹かれ、河川に関わる環境調査をしたいと現在の会社に入社しました。入社当初は水質分析の一端を経験しつつ、主には植物調査を担当し現地調査から報告書作成まで、諸先輩方に教えていただきながら行いました。現場は河川の他、山登りや湿原等、自分一人ではなかなか心細く行かない場所、許可が無ければ入れない場所に仕事で行けること、思わぬ野生動植物との出会いがあることが、時に吸血虫との闘いが辛くもありましたが魅力でした。

技術士試験は、まだ問題に馴染みのあった環境部門を受験し、数年かけて平成21年に合格しました。合格後は管理技術者を担当する中で、これまた多くの方々のお世話になりながら業務を実施し、今に至ります。ここ数年は、五十路近くなったこともあり腰痛やら膝痛がふいに現れるようになりました。調子が良くない時に現場人員を交代してもらえるのは、有難いやら申し訳ないやらの気持ちが混ざります。そして、私の場合は姿勢のバランス(重心の置き方)・体幹の弱さ・体の堅さが故障につながっていることが、痛みが出てから気づきました。今まで蔑ろにして痛めつけていた体に謝りつつ、現場に出続けるためにも健康が一番と、姿勢や動き方の癖を見直しているところです。また、不合格続きの建設部門の合格を目指します。

折戸 由里子 (おりと ゆりこ)

●環境部門(環境保全計画)

勤務先

株式会社 北開水工コンサルタント



→次号は、折戸 聖さん(水産部門)